

～コロナ禍
だからこそ～

正しく恐れ、前に進む

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和3年4月23日
第2号

新型コロナウイルス感染症の拡大がなかなか止まらない状況が、全国的に続いています。そして、東京都や大阪府をはじめとするいくつかの都府県には、本日にも緊急事態宣言が発出される見通しとなっています。新潟市においても、感染の拡大は大きな問題となっており、今週は、児童生徒の感染が確認されたことによる学級閉鎖が複数の小中学校で行われました。

このような状況下で、学校のすべきことは何かを校長として考えたとき、出てくる結論は1つです。それは、感染防止対策をしっかりと講じながら、安易に、そして過度に教育をあきらめることなく、必要と信じる教育活動を可能な限りやり切ることです。

命が大切であることは言うまでもありません。しかし、「命を取るか、教育を取るか」といった二項対立の考え方に立つことはありません。安心・安全を確保するのは当然ですが、感染リスクを過度に恐れるあまり、学校教育の役割を簡単に放棄することはあってはならないと考えています。

始業式で、「感染防止対策を全員が確実に実行しながら、できることの可能性を自分たちで広げていこう」という話をしました。リスクを正しく見極め、できないことはできないという判断をするとともに、可能性のあることに対しては「いかにしてやるか」を求め続けていきたいと思えます。

大形中は、「簡単にはあきらめない学校」でありたいと思っています。

新型コロナとの「共存」とは？

感染のリスクを下げて生活する

① 「ゼロ (0) リスク」を求めない

- ・ そもそも、リスク「ゼロ」はあり得ない
- ・ 3密の「重なり」を徹底的に避ける
- ・ 自分のつくるリスクは人のリスクにもなる

② リスクを下げる行動を知る、実践する

- ・ 新しい生活様式をしっかりと実践する
- ・ 全員が「自分事」として取り組む
- ・ 誤った情報や思い込み振り回されない

「正しく恐れる」ことこそが大事!

「With コロナ」の新年度がスタート

○ 「やる」「やらない」ことを徹底する

- ・ 大事なことは「安心・安全」
- ・ 感染のリスクが高い行動を避ける
- ・ 全員が「意識」「自覚」して行動する

○ 制約のある中で、「やる」を目指す

- ・ やるべきことを、いかにしてやるか
- ・ 安易にあきらめない、できる方法を模索する
- ・ 「学級」「生徒会」「部活動」の取組が鍵を握る

自分たちの可能性を自分たちで広げよう!

4/7 始業式 校長講話 (プレゼン) より

感染防止対策を徹底して行います!

学校で行っている対策の一部です。職員による校舎の消毒などもやっています。



切ない思いに寄り添おう

誰もが感染する可能性があります。もし、身近で不安な思いをしている人がいたら、温かく寄り添えるのが大中学生です!

① 毎朝の健康観察

朝の会で、健康観察表の記録と担任の見とりをもとに、生徒一人一人の健康状態をチェックしています。



③ マスク着用についての指導

- ・ 飛沫感染のリスクがある状況では、マスク着用を徹底しています。
- ・ 忘れた生徒には、学校にあるサージカルマスクを提供しています。



② アルコール手指消毒の実施

教室に手指消毒用のアルコールを設置しています。給食前など、必要な状況でいつでも手指消毒ができる体制となっています。



④ 換気の確保

- ・ 生徒の学習・活動場所では、常に窓の一部及び廊下側の出入り口や欄間を開け、換気を確保しています。
- ・ 昼休みには、一斉換気の時間を設けています。



⑤ 適切な距離の確保

- ・ 教室の机は、前後左右の間隔を確保して配置しています。
- ・ 全校朝会などの集会時には、生徒同士の前後左右の間隔を大きく空けて整列します。



⑥ 掲示物による啓発

感染防止への意識を高めるため、生徒会の作成したものをはじめ、掲示物による啓発を行っています。

